

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400290-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400290-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的なグループホームを目指し、入居者様だけではなく職員も笑顔で毎日過ごせる様努めています。町内会の催しに参加し地域の方々とも交流を持っています。入居者様が出来る事を声掛けし見守りを行い、入居者様一人ひとりの意思を尊重し安心して生活して頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は外食系産業であるが、昨年、道内各地に幅広く展開している介護保険事業部と分離し、全事業所が書式の統一を含め、一律した機構改革に着手しており、本部主催の月1回の勉強会は職員自身がテーマを考え発表し、質の向上に積極的に取り組んでいる。建物の持ち主でもある管理人の家族が3階に住んでいる環境で、地域の方々との交流や町内会行事には利用者と職員が参加し、近所の方が散歩途中にパンフレットを頂きに気軽に立ち寄るなど、事業所は地域に開放している雰囲気がある。職員の意見や要望に迅速に対応する管理者を職員は信頼し、チームワークの良い職場として評価している。利用者は趣味の折り紙で作品を作り、季節の食材を取り入れた食事を楽しみに生活している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1階 花\*花アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が把握出来るよう、ホームの数か所に理念を掲げ同じ方向性で実践できるよう業務に取り組んでいる。	管理者と職員は「信頼と安心・敬愛」の事業所独自の理念を玄関や共有スペースに提示し、全体会議で振り返る機会を設けてより良く理解し、サービス提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りや敬老会等に参加させて頂いたり、ホームでの行事の際、町内会の「歌俱樂部」の方々に参加して頂いたりと交流を深めている。	町内会活動の参加と、定期的に訪れるストレッチ体操とギター弾き語りなどボランティアの受け入れ、保育園児の来訪と事業所恒例の流しそうめんとよさこい踊りには大勢の方々が訪れるなど地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゴミ拾いに参加し、お手伝いをさせて頂いたり、ホームでのイベント時はお知らせをして交流を深める事により理解して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動状況を報告し、運営推進会議で出された意見をミーティング時に周知徹底し、職員一人一人が意識を持って取り組んでいくよう努めている。	地域・包括・家族など各方面から参加し定期的開催している。事業所の運営状況や行事活動、災害対策と利用者の日常の様子をビデオで観賞するなど、多岐にわたりアイデアを取り入れて実施し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村で行われる研修等は、積極的に参加している。また、日頃より市町村担当者の方と連携を取りアドバイスを頂きサービス向上に繋げている。	行政とは相談などで密接に連携し、担当者やケースワーカーと情報を共有しながら良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が作成したマニュアルがあり、職員全員がいつでも閲覧出来るようにしている。マニュアルを一人ひとりが正しく理解し、同じ方向でケアを行っている。	事業所ではヒヤリハットや事故報告書を定期的に市の担当者に報告している。管理者と職員は身体拘束の研修会に積極的に参加し意識の統一を図り、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様のご家族様には、来訪時やお便り等で現在の状況を伝えています。また、職員は研修に参加し日々学ぶ機会を持つ事により十分理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な制度を利用する入居者様が増えていくと考えられるので、職員全員が把握出来るように順次、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、御家族様に契約内容、または契約書の内容を説明し、不明な点や疑問点があれば十分に説明を行い、納得して頂ける様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、確認をしています。また、日々の生活の中で意見や要望を聞き、速やかに対応できるように努めています。その要望や意見を、日々の申し送りやミーティングの中で、職員全員が共有出来るように話し合っています。	事業所は「ホーム便り」を発行し利用者の日常生活を報告しているが、「ビデオで観たい」との家族からの意見で、運営推進会議でも観賞するなど、表出された課題には職員全員で話し合い反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中や職員会議等で気が付いた事や思っている事を話し合える環境作りをしています。また、定期的に個人面談を設け、一人ひとりの思いを聞くようにしています。	職員の意見や苦情は、「専用ポスト」への投函と個人面談やユニット会議で忌憚のない意見交換ができる環境を整え、よりよい運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思い、やる気を尊重し、勤務体制や努力、日々の仕事内容等、評価できるように努めています。また、職員が働きやすい環境作りをしていきたいと考えております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加してもらい、知識を身に付け、また学んだ事を日々の業務の中や会議等で第三者に伝える事により、より把握する事が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流会、講演会に参加することで、同業者との交流を深め、その後も繋げていける様な関係作りを努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と時間をかけてお話し、不安に感じている事や要望などを聞きだし、不安を解消すると共に、以前の生活に少しでも近づけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時、困っている事など伺い、じっくりを話し合いを行い、安心して利用して頂くためにも、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境や今までの生活状況を聞き、以前の生活に近づけるよう配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のご家族様には、来訪時やお便り等で現在の状況を伝えています。また、職員は研修に参加し日々学ぶ機会を持つ事により十分理解を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、いつでも話し合える関係、環境作り、入居者様にとって一番良い支援を一緒に話し合っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも来訪できるように支援しています。	定期的に帰宅する利用者や知人・友人の訪問があり、利用者の要望で電話を掛けたり、取り継いだり、職員は馴染みの関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中には声掛けにて嚙下、ラジオ体操を実施。また、月2回ボランティアの方が来訪されストレッチ体操を行ってくれている。他、トランプや歌を唄う等、職員が間に入り入居者様同士関わり合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、終了後は関わり合いはないが、今後、サービス終了後に関わりを必要としている場合は、支援を行い必要に応じて情報収集、提供していきたいと思えます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションから本人の思いを聞き、今後の介護計画に反映していく。	利用者の思いを日々確認し自己決定を尊重している。困難な時は、家族と情報を共有しながら思いの把握に努め介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメント表から人なりを把握し、入居者様や来訪時に家族から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、職員間の情報交換にて、一人ひとり身体状態に応じて、対応に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員間の情報を共有し、現状に即した介護計画を作成しています。	担当職員が本人と家族の意向や要望を聴取し、介護日誌に克明に記録している。モニタリングを繰り返しながら現状に合った介護計画を作成し、サービス提供内容の確認は利用者一人ひとりの日誌に「#記号」で照合している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常やいつもと違った事柄は介護日誌に記入し、申し送りにも話し合い、より良い介護に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて事業所間で助け合い支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ストレッチ体操の先生がボランティアで来て下さっている。その他、ボランティアの方が年数回来て下さる。町内会行事にも参加し、避難訓練等は消防の方が協力して下さいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様と御家族様が希望している医療機関へ受診しています。適切に医療を受けられるように、かかりつけの主治医に指導、助言を頂き連携しています。	2週間ごとにかかりつけ医の往診があり、毎週1回、訪問看護師により健康管理を実施している。専門的治療は家族同行の受診となるが、緊急時には職員が代行するなど、24時間体制で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により24時間いつでも看護師に連絡を取り、指示を頂いたり、直接来訪して下さります。また定期的に毎週火曜日、往診の時は金曜日に健康管理指導に来訪されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時は、すぐに御家族様に連絡を取り、病院の方には情報提供しています。面会に行った際は、状況を確認し、早期に退院出来るよう連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については入居時に、御本人様、御家族様の意向を確認し、その時が訪れた際は、医療機関、職員も交え、入居者様にとって最良の方法を考え支援しています。	家族には早い段階で終末期について説明し、主治医や職員、家族と協力して看取りを経験しているが、事業所作成の「看取り介護に関する指針」の同意欄には家族のサインをもらっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の為のマニュアルを作成し、職員が把握できるように事務所内に掲示しています。また、日々の申し送りや会議の中でも話し合うようにしています。防火訓練や救命講習も定期的実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を年2回実施しています。避難訓練では、昼夜問わず行い、職員に周知徹底しています。避難訓練の際は、地域住民の協力を得て行っています。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、3階に住んでいる建物の管理者でもある持ち主宅と地域住民も参加している。訓練終了後に消防署より反省事項、改善点などの指導を受け、備蓄についても検討しているところである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように言葉掛けに注意しています。	職員全員は利用者を人生の先輩として敬う心を持ち、言葉使い、排泄時の対応に配慮し、プライバシーを損ねないケアを実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望が聞き出せるよう、また自分の意志で決定してもらえるような声掛けを行い、入居者様の意思の確認を行えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員側の都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室来訪にて、散髪を行って頂いたり、爪やうぶ毛が伸びていないか確認行っています。髪染を希望する方は、髪染も行ってもらっています。		

ふれあいの里 グループホーム はこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と楽しく会話しながら職員一同食事をしていきます。また、個々の摂取方法や栄養バランスを考慮し提供しています。お手伝いの出来る方には、食事の準備や後片付けを手伝って頂いております。	法人の栄養士が作成した献立に合わせ食材が届き、調理は利用者の出来る事を見極め、もやしのひげ取り、お茶パック入れなどを含めて、食事の準備から後片づけまで携わる機会を作り、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の管理、記録を行い栄養バランスに気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の口腔内清潔保持の為、起床時、就寝時に歯磨き、うがいの声掛けを行っております。自力にて口腔ケアが出来ない方へは、介助にて行っております。また、義歯洗浄も行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を毎日記録し、職員が把握するようにしています。入居者様の排泄リズムや身体状況を把握し声掛けや介助にあたる事で失敗を減らせるよう心掛けています。	排泄チェック表で利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導で失禁の減少に努め、安易に紙おむつは使用することなく、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様が排泄された際に、排尿・便の有無を確認し、毎日記録しています。便秘気味の入居者様に対して、主治医指示のもと、下剤服用にて排便を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日等は決めず、週2回以上入浴出来るようにしています。その日の体調に合わせた入浴方法、またその人のニーズに合わせて介助し入浴して頂いております。	明るく清潔感のある浴室と大きな浴槽で、利用者は週2回の入浴をしている。状況に応じて職員2名で介助を行うこともある。職員は利用者の体調を考慮しながら、いつでも入浴できる体制を整えて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は、特に決めておらず、一人ひとりに合った時間に起床、就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示により、服薬介助を行っています。また、誤薬防止の為、服用前は職員2名以上にて確認を行い、服用されるまで見守り、介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や誕生日会以外にも、昼食会やおやつ時等、目先の変った物を取り入れ提供し楽しんで頂いております。		

ふれあいの里 グループホーム はこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出行事を設けています。例えば、春にはお花見、夏は夏祭り等。また、天気の良い日には、近所を散歩し、その際近隣の方には挨拶をしたりしています。	事業所近くの桜丘通りは、桜の満開時にはトンネルが出来るのを利用者は毎年、楽しみにしている散歩コースである。市電に乗って函館の街並みを一周するなど、外出により、社会性を活性化し残存能力の維持・向上につなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現実に金銭管理が出来る方はおらず、必要時に事業所が物品等を購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が電話を掛ける事を望んだり、手紙のやり取りを希望すれば、その都度支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所であるトイレやお風呂場等には、分かりやすいように表示しております。また、居室や廊下、食堂等には季節感あふれる飾り付けをしております。	家族から贈られたビーズの作品や、桜の花の小物が飾られた玄関は、来訪者の心を和ませ、4畳半の小上がりと対面式台所とテレビ・ソファの配置も家庭的で、不快な臭いもなく広くゆったりとした空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや食堂の席は、気の合った入居者様同士が自由に過ごしやすい様に工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と話し合い、使い慣れた物や本人の望む物を受け入れ、気持ち良く過ごして頂ける様に配慮しております。	クローゼットが備え付けてある居室は、家族の写真や趣味の折り紙、書道などが飾られ、安全のため床に布団を敷いて使用するなど自分の部屋として過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置したり、障害になる物は置かないようにし、自立した生活が送れるように配慮しています。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400290-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400290-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、スタッフが研修会や勉強会に参加したり、ミーティングでの意見を出し合い、明るく家庭的なグループホームを目指しています。地域との交流を大切にし、夏祭りや敬老会等の町内会の行事に積極的に参加し、理解して頂ける様努めています。スタッフが声かけし、見守りながら、入居者様ご本人のペースを尊重し、地域の方々と共に生き生きとした日々を過ごして頂ける様、取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階 あおぞらアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が同じ方向で実践できる様、事務所・玄関など職員の目が届く場所に理念を掲げ、日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会、敬老会、夏祭り等に参加させて頂いたり、ホームでの「昼食会」へ参加して下さったりと交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加させて頂いたり、ホームでのイベントへ参加させて頂いたり、地域の人々と交流を多く持つ事により理解を深めていただける様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動状況や行事等を報告し、御家族様、町内会役員、地域包括センター職員により、要望や助言等を聞き、話し合い、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方々と日頃より連携を取り、サービスの取り組みを伝えたり、何でも相談できる関係づくりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、職員全体が認識を高め、内部研修、外部研修、勉強会を通じて理解を深めサービスの質を高めていこうとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や勉強会の実施、職員同士で気づき、注意できる関係づくりをし見過ごされる事のないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後この制度を必要とされている方が増加すると思われるので、職員全員が制度について理解できる様、研修等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に御家族様に文章で説明し、疑問・不明点などがあれば十分に説明し、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口を設置し毎日確認している。また、苦情相談窓口を設置、苦情相談があった場合には速やかに対応するようにしています。日々のミーティングや申し送りの中で、職員全体が話し合い、共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中や職員会議等、どんなことでも話し合える環境づくりをしている。また、管理者は随時面話し意見を聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやる気や、思いを尊重し、勤務体制や努力等を評価できる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等へ参加し、知識を身に付け、学んだことを職員全体へ伝えることにより、より把握する事が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流会、講演会に参加することにより、同業者との交流を深め、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の行動をよく観察し、時間をかけ傾聴することで不安を解消する様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時、ご本人の様子をお話して要望や不安な事を伺い、気軽に相談できる様に言葉掛けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様から以前の生活環境を伺い、スタッフ間で話し合い、必要なサービスを提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の中で思っている気持ちを出せる様心掛け、笑顔で過ごしていただける様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも笑顔で言葉を掛け、気軽に何でも話をして頂ける様な関係づくりを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客時、フロアや居室にてゆっくりと過ごしていただける様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同志子供の頃の話をされたり、レクリエーション等一緒に楽しまれたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームに来訪して頂ける様、日頃より良好な関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の希望や意向を重視し、介護計画に反映できる様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートから過去の生活歴、馴染みの暮らし方、これまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や申し送りノート、日頃のコミュニケーションと日々の生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望や意向を重視し、介護計画に反映できる様努めている。ご家族様の意見を重視し、よく聞き、スタッフ間で話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子だけでなく、小さな変化にも気づき、寄り添い、申し送りや会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内のグループホーム同士、オープンに意見交換を行い、支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には、入居者様と共に参加するよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族さまが希望する医療機関の受診ができる様、常に心がけ、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、いつでも看護師と連絡を取り合い、指示を仰いだり、直接看護師が来訪されている。又、定期的に健康管理に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、すぐにご家族様へ連絡を取り、病院の方には情報を提供している。又、早期に退院できる様、常に連絡をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様、ご家族様の意向を確認している。その際には、医療機関、職員も一緒に考え、最良の方法を支援するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、提示しています。又、防災訓練や救命講習も定期的に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っている。入居者様、地域の方々の協力にて訓練を行っています。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にスタッフ同士で声がけや対応の仕方で悪い所は注意し合い、記録など個人情報を使用後、規定の場所へ保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を妨げない様に配慮し、自己決定できる環境を作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や気持ちに配慮し、無理のないお手伝い、運動等を行って頂いています。個々の希望に沿って支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容を利用したり、ご本人様の希望があれば職員が洋服などの好みを伺い購入し、おしゃれを楽しんで頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂ける様にテレビを消し、スタッフと会話しながら食事をする。入居者一人ひとりが出来る事を無理なく手伝って頂くようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は入居者様の記録に記載し、スタッフ全員が把握することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き励行の声がけに努めている。又、自力で行えない入居者様については、介助で対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排泄の間隔を考え、トイレ誘導し、失敗された時には自尊心を傷つけない様声がけを工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその影響の理解に努め、入居者様一人ひとりの排便のリズムを把握し、便秘ぎみの場合は医療連携に連絡し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や回数にこだわらず、体調を考慮した上で入浴して頂いている。拒否された方には声がけにも工夫し、入浴して頂ける様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムに合わせ声がけを行い、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示の元に服薬介助を行っている。薬剤師の情報を通じ、用法・用量・副作用をスタッフ全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの力を引き出せる様な家事仕事や趣味等を分担し、行える様努めている。		

ふれあいの里 グループホーム はこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出する行事を設けている。天気の良い日には声掛けし、散歩に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、金銭管理のできる方には入居者様ご本人が管理して頂く。金銭管理の困難な方は事業所が管理、物品等購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方は職員が付き添って電話をかけて頂いている。手紙の時はご本人様へ手渡し又は、代読しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同に使用されるトイレ、浴室等にはわかりやすい様表示しています。各居室前には表札をかけています。季節に合った飾り付けも行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、フロアの席は自由に気の合う入居者様同士過ごせる様にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望等を受け入れて使い慣れた物であったり、ご本人様、ご家族様と話し合い、居心地よく過ごして頂ける様に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等には手すりが設置されています。安心・安全に過ごせる様に障害物になるようなものは考慮しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームはこだて乃木

作成日：平成 25年 4月 3日

市町村受理日：平成 25年 4月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	家族には早い段階で終末期について説明し、主治医や職員、家族と協力して看取りを経験しているが、事業所作成の「看取り介護に関する指針」の同意書には家族のサインをもらっていない。	看取りの時期を迎えた場合、「看取り介護に関する指針」にサインを頂く。	看取りの時期を迎えた場合、早い段階でご家族様、主治医と話し合い、御家族様に「看取り介護に関する指針」について説明し、同意書の欄にサインを頂き保管する。	随時
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。